



慈雲山 妙華寺 本堂

(寺院紹介は 6 P)



第 5 号

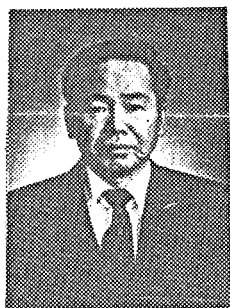
1988. 11. 1

発行

組の財政について

空知南組副組長 山崎賢成

組報担当より、組内費に関して「気のついたことを述べてほしい」と云われ、先日来、頭においていたのですが、何を云うべきか、なかなか浮かんでこないものであります。



思えば、杉田組長より「会計をしてほしい」と云われ、私のような者がと、辞退したのであります。役員会で相談しながら進んでいるので、引き受けた訳です。役員会で相談しながら、何かを云わねばと、そこで過去の決算報告を見つめながら、感じたことを記してみようと思えます。

前会計担当坪井氏より、会計の引き継ぎを受け、過去二年間は、前役員の繰越金のお陰で維持と、素直に思うのであります。昭和五十八年度、昭和六十年、昭和六十二年の決算報告を対比してみます。

別表のように、過去三ヶ年を対比すれば、実費収入は減、支出の部は、増の傾向になっております。因みに基幹運動推進では増加の一途となっているのが明白であります。

こうした面を見る上に、収入の面では変わらないのに、支出の面が多く、その為に繰り越し金を運用していることを、ご理解頂けると思っております。

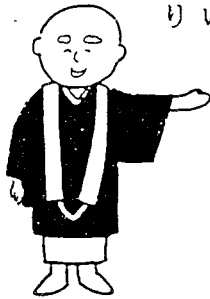
組の連研に参加した門徒の方が、本山中央教修に出席し、貴重な経験をすることが出来、有意義な研修であったと喜んでおりました。基幹運動推進に組内の若院が主体となり

「御同朋の社会をめざして」と、基幹運動の目標を体し、情熱を燃やして活動される姿を見ると、一寺院では実施出来ないことを、組単位で実施すれば、効果が発揮されることを認識させられました。

本年度、予算案について、役員会で現状を直視し、協議委員会で見解を拝聴し、組会において予算案のご審議をお願いした次第でありました。

その後、役員会において、組長の意見により、基幹運動推進担当より、昨年の決算報告を願い、本年はなるべく厳しく予算を運用しようということにしております。

組内ご寺院におかれましては、組の事情をご理解頂き、なお一層のご厚意の程、お願い申し上げます。



年度	収入の部	支出の部	(基幹運動費)
5 8	1,590,000	1,740,000	670,000
6 0	1,970,000	2,070,000	910,000
6 2	1,580,000	2,260,000	1,410,000

(収入の部は繰り越し金を除く)

妙華寺前坊守様を偲んで

唯専寺 吉野文子

妙華寺前坊守神梵信様には、長い間前任職様の御介抱をしておられました。この春、賜の手術をされて一時介抱に向かわれたようでしたが、去る六月十四日、八十一才で前任職様を残して先立たれました。

病院をお訪ね致しましたとき、初めての外泊と、御住職様御夫婦をお待ちかねのところでした。やがて、退院もと喜んでおられましたのに、御病状が判っておられたように、御寺族の皆様のお心の中も如何ばかりかとお察し申し上げたことでした。

神梵信様は、昭和三十三年南組寺族婦人会結成当時、会長として発足間もない会の運営、また全道大会、仏婦連協、寺族協同研修会に大変ご尽力下さいました。また、教養高く、お花お裁縫は、師範の資格をもっておられました。最近では、陶芸に親しまれ数々の作品を残されてあります。八十一年の御生涯を精一杯お念仏と共に生き抜かれた私共のお手本となられた方です。病院で御病床の中から奥様を案じ通しに案じて居られました前任職様が、奥様のお誕生日に色紙に書いて贈られたお歌ですが、その誕生日に往生なされました。六十年近く、喜びも悲しみも共に御苦労された思いを、感謝をこめて贈られたものとおもいます。



みほとけに 照らされ 生かされて
生きるや嬉れし 誕生日

北の京への旅

善行寺 名和ハル子

今回は、オールドバアチャン八名の参加であり、その旅の模様を記してみました。楽しんで書いていた北の京への旅、若別へ到着したのは、

お昼時でもあり、すぐお祭り広場で昼食をとった。ステージでは、カラオケが始まっていくて楽しく観覧する。また、五重の塔の展望台に上ると茶菓子が出て、八十四才の案内人の名調子で七福神、仏像などの美術品を観賞した。

今度は、モノレールに乗って北海道大観音建立の現場に着くと台座にあたる処に金色に輝く観音像、白色の観音像、大理石の絵画など来年の十月に完成の予定という八十八メートルの大観音像は、エレベーター二基がつくというどんなに素晴らしいことかと想像

させられる。ここでも紅茶の接待をうける。その他、十二支苑を廻り、樋浦様、高村様合流した後、夕食のステージでは、台湾のアトラクションあり、椅子つみの芸や空中散歩の逆さ歩きなど、手に汗握る曲芸に観客は、拍手喝采、歌謡曲などに

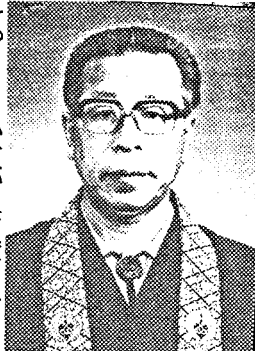
昭和の初期は、日曜学校花ざかりでした。美唄・正教寺の前住職は、童話が上手で私共は美唄まで聞きに行ったものです。

西本寺では、降誕会に劇場を借りて、日校生徒の劇や遊戯をした

事があり
ました。

坊僧烈伝 空高昭史

西本寺住職 藤堂 西涯



あたかも五月若葉の頃でしたから五月会と名づけられたように記憶しております。又、壮年会は、唯専寺・妙華寺・西本寺に単位仏仕が出来ましたので会場持ち回りで空南仏仕研修会を始めました。

「御命日にしたい」様々な要望が出て頭を悩ませました。現在の常例線の日程は私の苦心の作です。然し、長沼から歌志内の移動は大変だなあと今でも心の痛む思いです。近年組内の教化活動では、

聞き惚れて、台湾製の扇子を皆買わされてしまった。そのあと、女性風呂のギリシャ神殿大浴場に入る。大理石の彫刻が大浴場内の周辺を飾り、大浴場の外、レモン風呂、酒風呂、その他いろいろ小浴場もありゆったり寛いだ気分になる。

昭和三十一年から五年間組長を致しました。大遠忌を契機として宗門の教化活動が盛んになり、仏仕・寺族婦人会等が新しく提唱されました。空南でも結成に努力したわけです。寺族婦人会の初代会長は吉野文子さんでした。その後、若妻会が誕生致しましたが、時

次に、常例で思い出にありますことは、布教使が廻り易いように常例線の日程を組み替えてほしいと教務所から要望があり、各寺に連絡しました。なにしろ「折角定着したのに日を変えると参詣が少なくなる」「前住の命日だ」

仏青が異色ではないでしょう。又、正教寺の百日晨朝参りも実りある活動でした。連研も株を上げております。子供会も盛んになってきました。空南若手僧侶の団結と意欲的行動に拍手を送ります。

早朝、雷雨の音で眼が覚めた。折角来たのだからもう一度この素晴らしい庭園を散歩したいと思っただのに断念。つくづく、健康であったことを感謝しながら解散、来年も又健やかでお会いしたいものと願いつつ。

中央教修に参加して

この度はご縁がありまして、三泊四日の中央教修に参加させて頂き、緊張の中での教修でした。

参加人員四〇名で、北海道から山口県までの広い範囲の皆様方と共に、聴聞させて頂き私の信心の浅さと未知であったことを痛感致しました。

教修の会場は、大谷本願内で、教修中は当番班を作り、規則正しく朝夕はおつとめをさせて頂き、厳しく正しい生活でした。

教修の内容は、講師五名、指導員三名で、親鸞聖人の教えを、判り易く解説をして頂きました。「基幹運動を進め、御同朋の社会をめざして」という法座が中心でした。法座の中で印象に残ったことは、同朋運動についてでした。本州は歴史が古いだけに、古い時代に出来た差別が未だに根強く残っていて、生の声を聞かされて驚きました。就職、

私は、この度尊い御縁をいただき、賢誠寺坊守様、証法寺坊守様、蓮教寺若院様と共に、得度受式の機会にめぐま

賢誠寺門徒 黒沢 武



結婚、町内会の交際など、全て差別されていることです。このことは、政治では解決が出来ず、宗教の力によって解決していかねければならぬ運動として、強く動き始めています。

最終日は、決意表明式があり、各自が御本尊様に向かって焼香を行ない、出身地、氏名と決意を述べ、一生忘れられない儀式でありました。教修中に多くの方々との交流が出来ましたことを大切にしていきたいと思えます。

れ、先立って十一日間の得度習礼を受けました。正直申しまして、甘い日暮しをしてい私には初めの二、三日間は、

とても長く、つらい毎日でした。

五時半の起床に始まり、深夜の習礼、それに十五分間の短い無言の食事、又、三十年以上も経験していない毎日のテストの緊張感想像以上のものがありました。

その中で、三日目に先生の笑顔を見た時は、如來様に微笑みかけられた様な気持ちでした。また、全国各地から得度習礼の為集まってきたわけですが、多くの人が柄に触れる度に、不思議な御縁で結ばれた法の友達との出会いに感謝せずにはいられませんでした。所長さんの最後の言葉に「得度とい

得度習礼を終えて

報 恩 寺 辰 田 慶 子

うのは外に向けてる目を内に向けてること」であり、又、三不「不平、不満、不足」に気づかせてもらうことだと申されました。今後の私達の生活は、

周囲のあらゆる目から見詰められていることに気づかされるのでありました。浄土真宗は聞法がすべてでありますから、口で伝える事も大切ですが、生活の姿がそのまま見る人の眼を通して移っていくことも、聞法であるということも知らされて頂きました。

厳しさも普段のいい加減な私の生活に対する如來様のお手まわしと聞かせて頂き、人間として得るところの多い一日間でした。

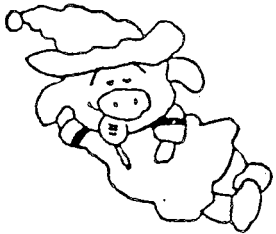
(本山中で記念撮影の四人)



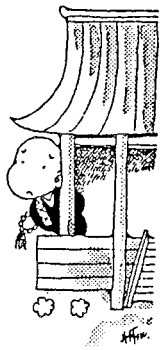
組の動き

- 〔青少年部〕
 - ◎七月三十日 茶志内法王寺において寺院子弟研修会が開催されました
〔聖人の一生について〕
講師：永岡龍乗師
 - ◎十月二十三日 長沼警報寺において日校研修会が開催されました 参加八十名
〔仏の子供ってなあに〕
講師：高橋宗瑛師
- 〔婦人部〕
 - ◎五月十日 北ブロック仏婦大会が上砂川証法寺に於いて開催されました
参加者 百八十名
講師：打本顕真師
 - ◎六月十四日 中ブロック仏婦大会が栗沢賢誠寺に於いて開催されました
参加者 三百三十名
講師：永江雅俊師
 - ◎六月十七日 南ブロック仏婦大会が南幌妙華寺に於いて開催されました
参加者 二百七十名
講師：打本信英師

- ◎寺族婦人会総会
五月三十一日 於 岩見沢『小川』 二十三名参加
- ◎寺族婦人会研修
九月二十九日 札幌『芸術の森』を見学 十二名参加
五月会総会
五月二十三日 於 岩見沢『味力』 十一名参加
- ◎五月会 富良野ラベンダー見学 七月十三日九名参加
- ◎五月会研修会 長沼警報寺 八月一日 参加者 十二名
講師：瓜生津隆真先生
〔仏の教え・求道心〕
- ◎五月会研修会 栗沢報恩寺 十月十九日 参加者十一名
講師：辰田真正師
〔真宗一般・悪人正機説〕
- ◎仏婦連協研修会
十月二十四日 幌向本向寺
講師：藤順生師
百八十名参加



- 〔僧侶部〕
 - ◎Bブロック僧侶研修会
七月十一・十二日
旭川パレスホテル
講師：瓜生津隆真先生
 - ◎空南会総会
五月十九日 岩見沢平安閣
全員参加で記念撮影
 - ◎空南会別院報恩講出勤
十月十四日（お初夜）
 - ◎僧侶研修会並びに同朋運動研修会 十月三十一日
講師：金龍慶静師
於 岩見沢平安閣



【金糸猴展ボランティア活動に参加！】

- 〔門信徒部〕
 - ◎仏壮研修
七月十六日 四十名参加
〔その他〕
 - ◎御消息披露記念法座
六月一日 於 美唄正教寺
二日 於 長沼警報寺
三日 於 幌向本向寺
講師：打本顕真師
 - ◎第六回青年僧侶全国大会
七月二十一日・二十二日
於 札幌別院 参加十二名
 - ◎伝道院生の布教実修が組内九ヶ寺を会場に行なわれました
七月一日～三日
会場は次の通り
長沼警報寺、由仁本覚寺、
角田教覚寺、岩見沢光明寺、
栗沢報恩寺、志文静雲寺、
美唄正教寺、茶志内法王寺、
砂川西願寺

一昨年の岩見沢博に続き、今年も岩見沢公園で開催されました「金糸猴展」での車椅子介助のボランティア活動に「空南会会員」をはじめ組内寺族の皆様が、のべ二〇名ご参加下さいました。孫悟空のモデルと言われる金糸猴を見学しながら、多くの人々との出会いが生まれました事は、とても素晴らしいものでした。

☆次の方が住職継職法要を厳修されました

五月十五日 岩見沢光明寺

藤沢正記師

九月十一日 美流渡正瀧寺

久保田一真師

十月三日 上砂川証法寺

樋浦芳彦師



☆次の方が九月十五日得度されました。今後のご活躍を期待します。

正瀧寺 久保田真史師

大安寺 川原千明師

☆北村大安寺では、昨年九月に御殿が完成されました。

☆上砂川証法寺で五月二十六日親鸞聖人の銅像が建立されました。

☆七月二十日茶志内法王寺住職松山宗生師におかれましては、悲願の運転免許証を手中に収められました。

☆三笠善照寺では八月に本堂が増築完成されました。

☆美唄正教寺で猫の手も借りたい八月十三日新発意が誕生になりました。龍人(たと)ちゃんと呼名。

☆栗沢賢誠寺住職吉野顕隆師は、教育委員並びに保護司に任命されました。

☆美流渡正瀧寺では九月十日庫裡改築落成慶讃法要が勤修されました。

☆美唄正教寺では、百日晨朝参拝に延べ三千六百名のお参りがありました。

☆栗沢報恩寺々報「慈心」が三十号を記念して紙面が拡張されました。

組の予定

◇第三回連研 十一月十二日 於 志文静雲寺 午後四時

◇仏壮研修会 十一月中旬 於 由仁本覚寺

◇門徒総代会並びに研修会 十二月二日 於長沼誓報寺

◇青少年部中高生のつどい 十二月下旬

◇五月会 十二月十日 サンプラザダイナーショー 出演 欧陽菲菲

◇日校研修会 六十四年三月

『寺院紹介』

慈雲山 妙華寺

◆起源 * 明治二十九年七月幌向村一四八番地の一に説教所を設ける

◆寺号公称 * 明治三十四年三月二十日許可

◆開基 * 神楚秀峰、二世無學三世義学、四世悖

◆沿革事項 庫裡新築

* 明治三十四年十月 本堂

* 大正二年 仏教婦人会発会

* 大正四年 離座敷新築

* 昭和八年 仏教青年会設立

* 同二十六年 仏教青年会新結成

* 同三十一年 庫裡改築

* 同三十八年 納骨堂建設

* 同四十六年 新本堂建設

* 同五十年 仏教壮年会結成

* 同五十二年 容殿新築

* 同六十二年 新納骨堂建設

組報 佳米 俊俊 記

▼古代の遺跡・藤の木古墳が一千数百年の眠りよりさめ、日本の古代史上に新たなページを加えることになるこのことです。▼この、空知南組組報も何十年何百年後に見た人は、どのような思いを抱くのでしょうか。▼学術的な期待は出来ないにしろ、空知南組の歩みを知る一つの術になれば素晴らしいなあ、と思いつつ、早くも第五号を皆様にお届けすることになりました。▼境内にタイムカプセルを埋める時はこの組報も一緒に入れる事にするつもりです。(S・T)

組報に関する御意見・御希望等は、組長事務所又は広報委員まで御連絡下さい。是非、お待ちしております。

一九八八年十一月一日第五号

発行所 空知南組々長事務所